

他電力元幹部「裏金になる金額」

どこに流れた

原発マネー

関西電力幹部らに福井県高浜町の森山栄治元助役から少なくとも3・2億円の金品が渡っていたことについて、他の電力会社元幹部らから「もろった金額が多すぎる。異常だ」など疑念の声が出ています。「原発マネー」はどこに流れたのか今後の関西調査の焦点になっていきます。

関電疑惑

「原発の地元」に寄付したり、地元業者に仕事を回したりすることはよくある。しかし、電力会社の役員個人に戻ってくる金額としては異常だ。

福井県内の事情を知る電力会社の元幹部は、関電側への「還流」についてそう驚きません。この元幹部は原発立地地域で、地元工作をしていたことがありますが、原発をつくる際には、政治家など地元有

力者を使って根回しする、ということです。原発完成後も、有力者の協力は欠かせないとも。再稼働のためなど追加工事や新増設工事をすすめる際に、「賛成の意思を表明してもらふ必要がある」といいます。

関電側に金品が流れた時期は、高浜原発(高浜町)再稼働のため安全対策工事をすすめた期間と重なります。当時、関電原子力事業本部で幹部をしていた2人には1億円を超える金品が渡っていました。

た時期は、高浜原発(高浜町)再稼働のため安全対策工事をすすめた期間と重なります。当時、関電原子力事業本部で幹部をしていた2人には1億円を超える金品が渡っていました。電力事業連合会の幹部として関電と付き合いがあった電力会社元トップは「(地元)の有力者が」金をくれると



記者会見で頭を下げる関西電力の八木誠会長(左から2人目)、岩根茂樹社長(同3人目)ら=2日、大阪市福島区

いうのは、理解不能だ。せびられることはままあるが...と言います。「原発を作るには20〜30年はかかる。地権者らと密接にならなければできない」とも。それでも「関電のよ

うに」先方が金をくれるから困った」なんて話を部下から聞いたことがない」と振り返ります。他方で「原発マネー」が役員個人ではなく、政治家側に「還流」し

子会社顧問 元町長も

福井・高浜 誘致派幹部受け皿に

関西電力幹部らに福井県高浜町の森山栄治元助役(故人)から「原発マネー」が還流した疑惑で、浜田倫三元町長(同)が関電子会社の環境総合テクノス(大阪市)の非常勤顧問を20年以上にわたって務め、報酬を受け取っていたことが7日、

分かりました。浜田氏は1962〜82年まで高浜町長を務め、森山氏と共に高浜原発の誘致などを進めたとされます。関電では別の子会社も森山氏は別の子会社も森山氏は別の子会社も森山氏は別の子会社も

受け皿となっていた格好です。環境総合テクノスは、放射線管理や水質調査などを手がけています。同社による後、83年ごろから死去した05年まで非常勤顧問でした。同社は報酬を「常職的な金額」(同社)としています。

ら渡された事案がほかにもないかを中心に調べる方針。還流先をさらに追及するとはしていません。

還流した「原発マネー」が本当に関電役員個人にとどまっていたのか、関電まかせにせず徹底説明が必要で

10/8 五 福